

薬剤師が説明!

中耳炎で使用する薬



薬剤部
薬剤師
高木大輔

① 中耳炎で使用する薬

急性中耳炎の治療では、重症度に応じて抗生物質（抗菌薬）を内服します。

軽症例 多くの場合、自然軽快するため、基本的には抗菌薬を使用せず経過観察を行います。3日間経過観察を行い症状が改善されない場合は、抗菌薬のアモキシシリンを5日間服用します。

中等症例 高用量のアモキシシリンを5日間服用します。症状が改善されない場合は、抗菌薬をクラバン酸アモキシシリンあるいはセフトレキシムピボキシルに切り替えるか、鼓膜切開を行ったうえでアモキシシリンの内服治療を継続します。

重症例 鼓膜切開とともに上述の抗菌薬の内服治療を行います。



滲出性中耳炎の治療薬

耳管などの周辺器官の粘液排出改善を目的にカルボシステインを服用します。さらに副鼻腔炎を合併している場合にはクラリスロマイシンを服用したり、アレルギー性鼻炎を合併している場合には抗アレルギー薬を服用することもあります。

穿孔性中耳炎の治療薬

耳だれなどの感染症を合併した際にはアモキシシリンの内服やオフロキサシンの点耳液を使用します。

真珠種性中耳炎の治療

お薬ではなく手術が優先されます。

代表的な抗菌薬

商品名：サワシリン錠→
(成分名：アモキシシリン)



商品名：オーグメンチン配合錠→
(成分名：クラバン酸アモキシシリン)



商品名：タリビッド耳科用液→
(成分名：オフロキサシン)



②風邪をひいた時の子どもの抗生物質の点耳の方法

1. 医師の指導に従って綿棒などで分泌物を十分に排除します。
2. 手のひらで薬瓶をにぎって、2～3分温めます。(冷たい薬液を滴下すると、めまいを起こすことがあります。)
3. 悪い耳を上にして、横向きに寝かせます。耳穴の入口が水平となるように頭の位置を保ちます。
4. 容器の先端が直接耳にふれないようにして点耳液を滴下します。
5. 中耳炎の場合は、点耳した後、耳たぶを後上方へ引っ張りながらゆるするようにします。すると、外耳道がまっすぐになり、空気の層がなくなり中耳腔まで十分に到達します。点耳の時にはつばを飲み込むようにします。
6. 点耳後10分間そのままの姿勢で薬液を染み込ませます(これを耳浴といいます)。この手順を1日2回行います。
7. 耳浴終了後、清潔なガーゼ、ティッシュペーパー等を耳にあてて起き上がり、耳の外へ流れ出た点耳液をふき取ります。



くす通信

第219号
2019年5月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

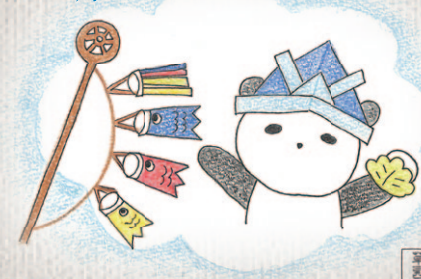
耳鼻咽喉科より

「中耳炎」について

薬剤部より

中耳炎で使用する薬

5月



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医学に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

国立病院機構熊本医療センター

● 診察日 月曜日～金曜日
 ● 休診日 土・日曜日祝日及び振替休日
 年末年始 (12月29日～翌年1月3日)
 ● 受付時間 8:15～11:00
 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
 TEL 096 (353) 6501 (代表)
 FAX 096 (325) 2519
 H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※形成外科の受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。
 ※一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。
 急患はいつでも受診できます。

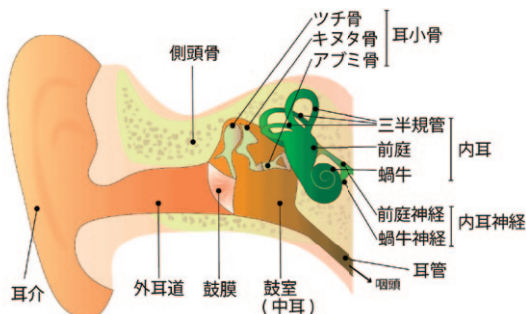
- 診療科
- 総合医療センター 総合診療科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、感染症内科、腎臓内科
 - 消化器病センター 消化器内科
 - 心臓血管センター 循環器内科、心臓血管外科
 - 脳神経センター 脳神経外科、脳神経内科
 - 感覚器センター 眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
 - 画像診断・治療センター 放射線科、放射線治療科
 - 救命救急センター 救急科
 - 病理診断科 ■ 外科 ■ 頭頸部外科 ■ 呼吸器外科
 - 小児外科 ■ 整形外科 ■ 形成外科 ■ 精神科
 - リウマチ科 ■ 小児科 ■ 泌尿器科 ■ 産婦人科
 - リハビリテーション科 ■ 麻酔科 ■ 歯科 ■ 歯科口腔外科

耳鼻咽喉科

当科では、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般の疾患を取り扱っています。2018年10月より常勤医二人体制となりました。開業の先生方より患者さまをご紹介いただき、必要によって入院・手術加療を行っています。鼻出血やめまいなどの耳鼻咽喉科救急疾患は救命救急センター医師の協力を得ながら、また大きな頭頸部手術は関連科医師の協力を得ながら対応しております。

手術は慢性中耳炎などの耳科手術から、副鼻腔炎に対する鼻科手術、扁桃摘出術や口腔・舌疾患、声帯ポリープなどの喉頭疾患に対するレーザー手術、唾液腺腫瘍や甲状腺腫瘍などの頭頸部外科手術、誤嚥防止手術など、幅広く行っています。悪性疾患の治療も行っていますが、再建手術が必要な進行癌は大学病院へ紹介することもあります。

耳の構造



ちゅうじえん 「中耳炎」 について

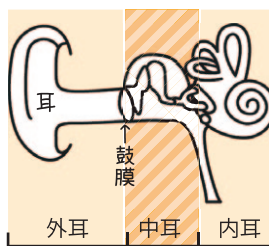
国立病院機構熊本医療センター
耳鼻咽喉科医師

たかの わかな
高野 若菜



ヒトの耳は、外耳・中耳・内耳に分けられます。いわゆる「耳」から鼓膜までが外耳です。頭蓋

骨の中にある部分を内耳といい、音の振動を電気信号に変換したり、平衡感覚を司ります。鼓膜から頭蓋骨までの空間を中耳といい、鼓膜に届いた音の振動を耳小骨と呼ばれる3つの骨で内耳へ伝えています。



この中耳に炎症が起きている状態が中耳炎です。今回は代表的な4種類の中耳炎についてお話しします。



① 急性中耳炎

細菌やウイルスなどの病原体によって急性の炎症が起こり、膿が溜まります。鼻や喉の炎症に引き続いて起こることが多いのですが、これは、鼻の奥と繋がっている耳管というトンネルを通して病原体が中耳に入り込むためです。子供の耳管は大人よりも太く短く、角度が水平に近いので、病原体が中耳へ侵入しやすいと言われています。



強い痛み、発熱、耳の詰まった感じで始まります。乳児では機嫌が悪くぐずったり、耳に手をやる様子が見られます。鼓膜が破れると溜まった膿が排出され、耳だれとなります。

軽いものは抗生物質の内服や点耳で治療します。鼓膜の腫れが強く痛みが激しい時や熱が高い時は、鼓膜切開を行って膿を出す処置を行うことがあります。

② 滲出性中耳炎

中耳の粘膜で作られる滲出液が溜まった状態で、耳管の働きが低下することが一つの要因です。幼少児のアレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎・アデノイド増殖症などに合併することが多く、子供の難聴の原因の大部分を占めます。鼻の奥の腫瘍性病変が耳管の働きを妨げ、滲出性中耳炎から病気が見つかることもあります。

原因となっている疾患を治療すると同時に、病態に応じて鼓膜切開などを行いますが、治療に時間がかかることが多く根気良く治療を続けることが重要です。

③ 穿孔性中耳炎

鼓膜に慢性的に穴が開いている状態です。急性中耳炎にかかった際に十分な治療が行えないと、鼓膜に空いた穴が残存し、炎症が起こるたびに耳だれを生じます。鼓膜に穴が開いていることで難聴も来します。

抗生物質で耳だれは落ち着きますが、根本的には鼓膜を再建する手術が必要になります。

④ 真珠腫性中耳炎

鼓膜が中耳腔の方へ引き込まれ、そこに耳垢などが溜まり真珠腫という病変を作っている状態です。手術の時に白く真珠のように見えることから「真珠腫」と呼ばれます。真珠腫は骨を破壊しながら増大するため、難聴の他に、めまいや顔面神経麻痺、髄膜炎などを合併することがあります。

頻繁な鼻すすりが、鼓膜が引き込まれるきっかけとなることがあります。重篤な合併症を起こす可能性があるため、できるだけ早期に手術を行うことが重要です。

